

サトイモ

土寄せと灌水で芋を大きく



生育適温は 25 ～ 30 度と高く、一方で低温に弱いので、霜で葉がすぐに傷んでしまいます。畑の乾燥に極めて弱く、一度しおれると回復が遅く、また芋の肥大中に乾燥すると、芋にひび割れが生じます。畑は耕土が深く、適度に水持ちし、かつ水はけが大切です。

[品種]

種芋から出た葉は、数枚重なって太い葉の束（葉柄・ずいき）を成し、この元が膨らんで親芋となります。親芋用の品種である「赤芽」「八ツ頭」「セレベス」は主にこの親芋を食べます。親芋の脇に側芽が発達して、肥大して子芋が付きます（図 1）。

子芋用品種には「石川早生」「土垂（どたれ）」などがあります。「八ツ頭」の葉柄はえぐみが少ないので、食用になります。

[畑の準備]

連作を嫌うため、同じ畑で 3、4 年は作らないようにします。1 平方 m 当たり苦土石灰 100g を早めに全面に散布し、畝幅 90cm 程度とし、深さ 20cm の溝を掘ります。

元肥は、溝 1m 当たり化成肥料（NPK 各成分 10%）100g、堆肥 2kg を施します（図 2）。肥料をまいた後、5cm 程度に土をかけておきます。

[植え付け]

中間地では地温が上がってくる 4 月中旬ごろから植え付けができます。地上に芽を出すまでに 1 カ月かかるので、暖かい場所でコンテナに仮植えし、芽出ししてから菜園に植え込むと良いでしょう。

種芋は芽を上に向け、株間 30 ～ 40cm とし、土を 10cm 程度かけます（図 3）。

[追肥・土寄せ]

土寄せは芋の肥大に関係し、一度に多くの土寄せをすると子芋の数が少なく、かぎ形の芋になりやすくなります。土寄せが少ないと子芋の肥大が悪くなり、子芋が地上に顔を出し、芋が緑化してしまいます。1 回目は 5、6 葉のときに、株の周りに、1 株当たり化成肥料 10g くらいを追肥し、高さ 5cm 程度土寄せします。2 回目は半月後、さらに 3 回目はその半月後に同様に追肥し、高さ 5cm 程度土寄せします（図 4）。

[灌水（かんすい）]

野菜の中で最も乾燥に弱いので、真夏の干ばつには毎日たっぷりと与えます。時には畝間の両端をせき止めて、水がたまるように灌水できると良いでしょう。また、敷きわらなどで土の乾燥を防ぎましょう。

[収穫]

「石川早生」のような早生品種では、早掘りしてお盆のときのお供え物や「衣（きぬ）かつぎ」として小さい芋を楽しむことができます。「土垂」や「八ツ頭」などの中晩生品種は 10 月ごろから収穫できますが、霜の降るまで芋は肥大します。

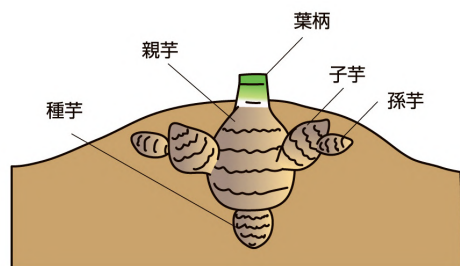


図1 サトイモの付き方

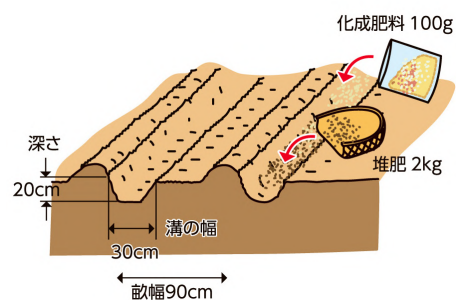


図2 畑の準備

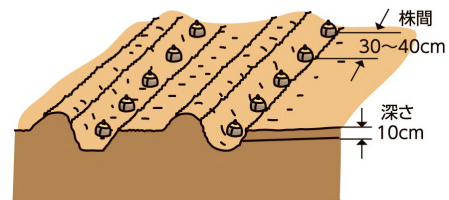


図3 植え付け

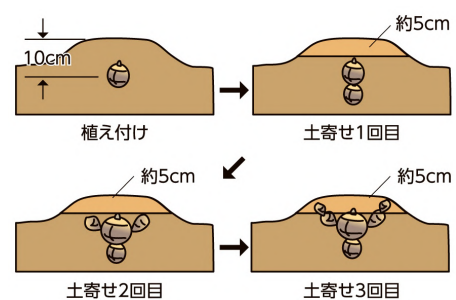


図4 土寄せ

栽培カレンダー(サトイモ)

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
中間地		●	●					■	■	
暖地	●	●	●	●	●	●	●	■	■	

● 植え付け — 生育 ■ 収穫

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。